



小泉八雲の怪談

1904年にアメリカで出版された『KWAIDAN』（邦訳「怪談」）の著者で知られるラフカディオ・ハーン。後に日本人として小泉八雲と名乗った彼の人生がドラマ化をきっかけに再注目されています。

『小泉八雲 日本の面影（NHK100分de名著ブックス）』

池田雅之／NHK出版



ギリシャに生まれ、イングランドで育ち、渡米して新聞記者として活躍する中、40歳で来日した八雲。英語教師として松江市に赴任後、最初に出版した『日本の面影』について、彼の人生や人となりを紹介しながら、明治の日本の姿や日本人の精神性を解説した1冊。

『怪談四代記 八雲のいたずら』

小泉凡／講談社



八雲のひ孫で、現在も松江市で民俗学者として曾祖父の研究に取り組む著者が、国内外へ八雲の足跡をたどる中で経験する不思議な体験や小泉家に伝わる怪談ばなし、家庭人としての八雲や妻ハツの姿といった親族ならではのエピソードを記したエッセイ。

『怪談（マンガ日本の古典 32）』

つのだじろう／中央公論新社



八雲の代表作『怪談』は、妻セツが幼いころに覚えた古い伝説や民話、書き記されたものを元に、彼の豊かな想像力で再話されたものです。この本は八雲が生き返らせた話のうち「雪おんな」「耳なし芳一」など、15編をマンガ化したものです。

『雪女（日本の童話名作選）』

小泉八雲、平井呈一、伊勢英子／偕成社



ひどい吹雪の夜、小屋に逃げこんだ二人の木こり。ふと目を覚ますと、白装束の女が、もう一人の男の上にかがみこんで白い息を吹きかけていたかと思うと、急に振り向き、こちらにもかがみこんできます。八雲の美しく悲しい物語の世界を見事に再現している絵本。

「おはなし会&音読の会&クリスマスおはなし会」の開催

～読み聞かせボランティアの皆さんが、楽しいお話をしてくれます～

● おはなし会 午前10時30分～

【野田川分室】11月22日（土）

● 音読の会 午後2時30分～

【野田川分室】11月22日（土）

● クリスマスおはなし会

【野田川分室】12月7日（日）

【加悦分室】12月13日（土）

【本館】12月14日（日）

※ いずれも午前10時30分～



昨年のクリスマスおはなし会の様子

- 問い合わせ先／与謝野町立図書館 ☎ 46-2451 加悦分室 ☎ 43-0376 野田川分室 ☎ 43-0087
- 開館時間／午前10時～午後6時 ● 休館日／毎週月曜（本館・加悦分室）、毎週火曜（野田川分室）、毎月最終木曜（共通）



がんばってます！消防団

編集 ● 本部

● 与謝野町消防防災フェア 2025

楽しみながら、消防・防災にふれる



心肺蘇生法を体験する子ども

10月19日、住民の皆さんに消防・防災への関心を高めていただくため、「与謝野町消防防災フェア2025」を野田川わくわくばるで開催しました。当日は親子連れなど約200人が来場され、会場はにぎわいを見せました。

会場内では、災害時伝言ダイヤルの使用方法の紹介やLPガスの安全利用に関する啓発、災害時に使用する救助資機材の展示・紹介のほか、救急コーナーでは消防署員の指

導による心肺蘇生法やAED体験も実施しました。

また、災害時に必要な知識を楽しく学べるキッズコーナーでは、「防災カルタ」「ぬりえ」「おりがみ」をとおして、子どもたちも楽しみながら消防・防災への関心を深めました。

駐車場では、消防資機材体験、煙体験、消火体験、高所作業車の乗車体験などを行い、来場者は災害時の模擬体験をとおして防災の大切さを実感していました。消火体験では、消防団員の説明を受けながら「ピンを抜く」「ホースを構える」「レバーを握る」といった一連の操作を体験。子どもから大人まで真剣な表情で的に向けて放水していました。

参加者からは「万が一に備えて使い方を知ることができ、安心した」との声もあり、防火意識を高めるきっかけとなりました。



- ① 消火体験で的をめがけて放水する参加者たち
- ② 防災カルタに挑戦する親子
- ③ 消防署員から消防資機材について教わる子ども
- ④ 高所作業車に乗車する来場者
- ⑤ 煙体験をした子どもたち

写真で見ると！
消防防災フェア

